

問1 ポルトガルがバスコ・ダ・ガマを派遣し、アフリカ南端を経由するインドへの新航路を開拓させた主な理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。
2. 当時中国を支配していた元との貿易を拡大し、絹織物や陶磁器を大量に輸入するため。
3. 地動説を証明するために、西回りで航海して地球を一周することが目的であったため。
4. 北アメリカ大陸にあると信じられていた黄金の国「ジパング」を探索するため。

問2 室町時代の中期、浄土真宗（一向宗）を信仰する地侍や農民たちが強く団結し、加賀国（現在の石川県）の守護大名である富樫氏を倒す出来事が起こりました。この蜂起によって実現した、その後約100年にわたる地域の状況を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2026年 高知公立入試 類似）

1. 門徒たちが独自の政治体制を築き、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるような自治を実現した。
2. 幕府に対して借金の帳消しを求め、幕府の徳政一揆へと発展し、全国的な徳政令の発令を勝ち取った。
3. 有力な国人たちが集まって合議制を敷き、守護大名の立ち入りを8年間にわたって禁じた。
4. 武家諸法度を無視したとして幕府から改易を命じられ、キリシタンを中心とした大規模な反乱が起きた。

問3 15世紀後半の応仁の乱以降、室町幕府の権威が低下するなかで、各地の戦国大名が自らの領国内を独自に統治・管理するために制定した法律を何とよ呼ぶか、正しい名称を選びなさい。（2023年 福井公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 公事方御定書

問4 室町時代後期から戦国時代にかけて、実力で領地を拡大した戦国大名たちが、幕府の法律に頼らず自らの領国を統治するために独自に定めた法律を何と呼ぶか、正しい名称を選びなさい。（2026年 大阪公立入試 類似）

1. 分国法
2. 御成敗式目
3. 武家諸法度
4. 公事方御定書

問5 室町時代後期から戦国時代にかけて、実力のある者が上位の者を打ち倒す「下剋上」の風潮が広がる中、各地の戦国大名は自らの力で領国を統治する必要性がありました。このように、戦国大名が領国内の家臣や民衆の行動を規制し、支配を維持するために独自に定めた法を何とよ呼ぶか、正しい名称を選びなさい。（2016年 福岡県公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 公事方御定書
4. 御成敗式目

問6 越前国（現在の福井県）を支配した朝倉氏の法には、本拠地である朝倉館のほかに国内に城を構えることを禁じ、有力な家臣を一乗谷に移住させるよう命じた規定があります。戦国大名がこのように定め、代表される「分国法」を制定した主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 三重公立入試 類似）

1. 家臣を城下町に集めて監視・統制を強め、反乱を防ぐとともに領国支配を安定させるため。
2. 幕府が定めた武家諸法度を遵守させ、将軍への忠誠心を高めるための準備を行うため。
3. 一乗谷を商業の中心地とし、家臣に農業ではなく外国との貿易に専念させるため。
4. 村々に代官を置くことで、農民から直接税を徴収する太閤検地の予備調査を行うため。

問7 16世紀半ば、種子島にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に新しい兵器が伝えられた出来事について、その後の歴史に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。（2020年 京都公立入試 類似）

1. 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。
2. この兵器の伝来により、騎馬武者が名乗りを上げて一対一で戦う伝統的な戦術がより一層重視されるようになった。
3. この兵器は朱印船貿易が最も盛んだった江戸時代初期に初めて日本にもたらされ、幕府の軍事力を支えた。
4. この兵器は元軍が日本に襲来した際に初めて伝えられたもので、鎌倉幕府が滅亡する直接の原因となった。

問8 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。（2020年 佐賀公立入試 類似）

1. 喧嘩両成敗
2. 連座（縁座）
3. 目目安箱
4. 奉公と恩賞

問9 戦国時代、各地の有力な戦国大名が自らの領国内の秩序を維持し、家臣や領民を統制するために独自に制定した法律を何とよ呼ぶか。（2024年 奈良公立入試 類似）

1. 分国法
2. 永仁の徳政令
3. 公事方御定書
4. 墾田永年私財法

答え合わせ・解説

問1	答え 1 イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。	中世ヨーロッパではコショウなどの香辛料が非常に高価でしたが、陸路の貿易はオスマン帝国やイスラム商人、地中海貿易はイタリアの都市国家に独占されていました。ポルトガルはこれらの中間搾取を避け、莫大な利益を得るために海路での直接取引を目指しました。
問2	答え 1 門徒たちが独自の政治体制を築き、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるような自治を実現した。	1488年、加賀国では浄土真宗の門徒たちが結束して守護大名を自害に追い込みました。この出来事は、それまでの階級社会において農民や地元の武士が中心となって、約1世紀という長期間にわたり自分たちの手で地域を運営（自治）したという点で、日本の歴史上非常に特異な事例とされています。織田信長によって平定されるまで、この体制は維持されました。
問3	答え 1 分国法	室町幕府の統治能力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名が領国を安定して支配するために独自に定めた法典です。幕府の法（幕府法）や荘園領主の法ではなく、大名自身の権力に基づいて定められた点に特徴があります。
問4	答え 1 分国法	戦国大名は、自らの力で手に入れた領地を安定して支配（領国支配）するために、家臣の行動を制限したり、領民の争いを裁いたりするための独自のルールを定めました。これは「家法」とも呼ばれます。鎌倉時代の「御成敗式目」や、後の江戸時代の「武家諸法度」と混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 1 分国法	戦国時代には幕府の権威が衰え、全国一律の法が機能しなくなりました。そのため、各地の戦国大名は自分の領地（分国）を治めるために独自のルールを制定しました。今川仮名目録や、武田氏の甲州法度次第などが有名です。江戸時代に幕府が大名を統制するために出した武家諸法度とは、制定の主体や目的が異なります。
問6	答え 1 家臣を城下町に集めて監視・統制を強め、反乱を防ぐとともに領国支配を安定させるため。	戦国大名は、家臣が各地で独立した勢力を持つことを防ぐため、分国法によって城の建築を制限したり、家臣を自身の本拠地（城下町）へ強制的に住ませたりしました。これにより、大名は家臣を直接コントロール下に置き、軍力を集中させることで強固な領国支配を実現しようとした。
問7	答え 1 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。	1543年（16世紀）に種子島へ鉄砲が伝来したことで、それまでの騎馬戦から足軽による集団戦法へと戦術が大きく変化しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げた堅固な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面で社会に劇的な変革をもたらしました。
問8	答え 1 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防御力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの分国法に盛り込まれました。
問9	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は、幕府の法（幕府法）に頼らず自らの力で領国を統治する必要性がありました。そこで、家臣同士の私闘を禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、農民の管理、寺社の統制などを盛り込んだ独自の法典を定めました。これを分国法、または家法と呼びます。